

1

特集

令和7年度入学式を挙行

Vol. **44**

August
2025

—大野元裕埼玉県知事が特別講演で新入生へエールをおくる

4月2日(水)、さいたまスーパーアリーナにて令和7年度埼玉大学入学式を挙行し、学部・大学院合わせて2,358名の新入生を埼玉大生として新たに迎えました。

坂井貴文学長は式辞で、新入生の入学を祝い、「ともに成長する喜びを豊かに経験してほしい」と激励しました。さらに、「学生時代に得た経験は、計り知れない財産となる」とエールを送りました。

そして特別講演では大野元裕埼玉県知事による講演が行われ「未来を生きる君へ」と題し、「未来は皆さんの選択次第であり、正しいファクトに基づいた判断が重要です。大学では人とのつながりを大切にしてください」と激励の言葉を贈りました。

式典には約1,300名の保護者の方々にもお越しいただき、多くの方々に見守られる中、新入生は希望に満ちた表情で学生生活の第一歩を踏み出しました。

式次第

- ・ 開式の辞
- ・ 学長式辞
- ・ 理事等紹介
- ・ 学部長等祝辞
- ・ 入学生代表宣誓
- ・ 閉式の辞
- ・ 特別講演
「未来を生きる君へ」
埼玉県知事 大野元裕氏
- ・ 同窓会長挨拶



▲式辞を述べる坂井学長



▲大野埼玉県知事



▲司会を務める在学生



▲新入生

2
教育

起業家精神を学ぶ —「アントレプレナーシップ教育プログラム」スタート

アントレプレナーシップ教育プログラムが、本年度よりスタートしました。

4月16日(水)、理工学研究科の長嶺拓夫教授による「アントレプレナーシップ序論」の第1回講義が開催されました。講義では、本プログラムの概要説明に始まり、アントレプレナーシップの定義や思考法、実際の起業事例などが紹介されました。

続く第2回講義では、「起業事例紹介」と題し、株式会社デジタルベリーの赤羽根康男代表取締役(研究機構オープンイノベーションセンター客員教授)にご登壇いただきました。本学教養学部をご卒業された赤羽根代表取締役は、現在さいたま新都心にて、ホームページ制作、デジタルカタログ、印刷物制作を事業とする企業を運営され、講義ではご自身の体験談や「起業家として学生に伝えたいこと」など多岐にわたる貴重なアドバイスをいただきました。

学生によるビジネスコンテスト出場も増えており、在学生の起業事例も生まれています。本学はアントレプレナーシップあふれる人材の育成に取り組み、地域経済のさらなる発展に貢献してまいります。



▲講演する赤羽根代表取締役

3
教育

学生の朝を応援&キャリア意識アップ—「100円朝食・朝活プロジェクト」開催

本学では、学生たちの規則正しい生活を促すこと、経済的負担の軽減を支援すること、学生のキャリア教育を目的に、今年度前期は、5月12日(月)～6月27日(金)までの期間に、100円朝食・朝活プロジェクトを開催しました。また、このプロジェクトの継続的な開催のために、本企画に賛同いただける協賛企業とともに、各業界や企業の特徴の紹介や、卒業生が登壇し後輩へのアドバイスをいただくことで、低学年のうちからキャリア意識を高めること、学生の就職先の選択肢を増やすことも目的としています。協賛企業の登壇は5月22日(木)から始まり、毎日120名以上の学生が集まり、企業のご担当者は学生からの質問を受けるなど交流を深めました。複数のメディアからも取材を受け、新聞・テレビで取り上げられ話題となりました。

このプロジェクトは、10月以降の後期も実施予定で、今後も多くの企業からの協賛をいただき、企業と学生にとってそれぞれ大好評の取り組みが継続されます。



▲企業の説明を聞く学生



▲朝食を楽しむ学生

4
学生

全国植樹祭2025を彩るフォトスポットを製作—教育学部木材研究室の学生が活躍

5月25日(日)に秩父市、小鹿野町で開催された全国植樹祭2025にあたり、本学では教育学部木材研究室の学生が中心となってフォトスポットの製作を行いました。66年ぶりに埼玉県で行われた全国植樹祭は、天皇陛下のご臨席のもと、全国から5,000人以上の来場者を迎え、式典や記念植樹が行われました。

本学では、教育学部生活創造専修技術分野・ものづくりと情報分野の学生が設計、製作を担当することになり、木材研究室(浅田茂裕教授担当)に所属する4年生、武藤史玖さん、西村萌さんを中心に製作活動が進められました。製作にあたっては、埼玉県産のスギ材を中心に活用し、同研究室が研究・実践に取り組む「木育」をテーマとして、子どもから大人まで愛される積み木遊びの世界を表現したフォトスポットを完成させました。

「I Love 植樹祭」と名付けられたこのフォトスポットは、「I」の中に入って、木への愛を実感できるなど、遊び心がいっぱいのデザインです。多くの来場者に埼玉の木材、木や森への愛を見て、触れて、感じていただけたと思います。

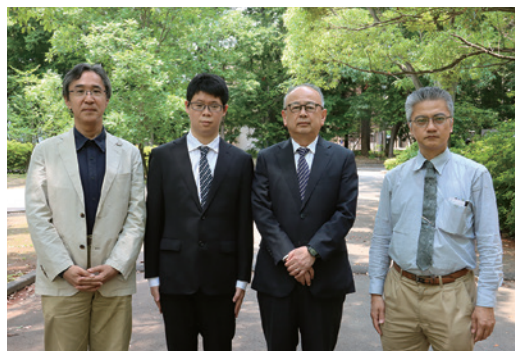


▲製作したフォトスポット

5 学生 学生の努力と成果を称える ― 令和6年度工学部長賞表彰

6月2日(月)、令和6年度埼玉大学工学部長賞表彰式が執り行われ、環境社会デザイン学科を卒業し、他大学の大学院へ進学された山下響貴さんが受賞しました。この賞は、学士課程卒業後に大学院進学を予定している卒業生のうち、優秀な成績を収めた学生を表彰するものです。

表彰式には奥井義昭工学部長をはじめ、内村太郎環境社会デザイン学科長、指導教員の深堀清隆准教授が出席し、山下さんのこれまでの努力と成果を称えました。山下さんは、卒業研究「都市の民間緑地における生物多様性のあり方に関する研究」においても優秀者として表彰されており、学業および研究面での高い評価が今回の受賞につながりました。式では奥井工学部長より「大学での研究は今後の人生において大きな糧になる。これからは研究の道に加えて、民間での活躍の場も広がる。ぜひ多方面で力を発揮してほしい」との激励の言葉が贈られました。



▲(左から)深堀准教授、山下さん、奥井工学部長、内村学科長

6 国際 スポーツでつなぐ国際交流 ― Beyond borders CUP 2025を開催

5月24日(土)、本学サッカーグラウンドにて、県内の小中学生が、国籍・宗教・性別などのボーダーを超えて、サッカーを通じて、絆を深め合う国際交流事業が行われ、総勢60名以上が参加しました。ウォーミングアップ 市橋秀夫副学長(国際・グローバル教育担当)の開会挨拶に続き、クルド人チームvs日本人を含む多国籍チームの対抗戦という形で5ゲームが行われ、大変盛り上がりしました。

本交流事業は、「一般社団法人Seeds」、「在日クルド人とともに」、「Harmony Sisters Network」との共催で行われ、本学を含む大学生のボランティアが主導して、企画・運営されました。本学が推進する「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」としても、地域連携事業の1つとして位置づけています。



7 研究 研究成果を社会へ ― 「埼玉大学認定ベンチャー」称号授与

4月16日(水)、埼玉大学認定ベンチャー称号授与式を挙行了しました。この制度は、本学での研究成果を活用して起業したベンチャー企業に対して「埼玉大学認定ベンチャー」の称号を授与し、その企業に対して適正な支援を行うことを目的に、令和3年度に創設されたものです。今回、以下の企業が認定されました。

法人名	株式会社FeelSensing
代表	代表取締役 蔭山健介(大学院理工学研究科 教授)
事業内容	農業用アコースティック・エミッション(AE)センサとデバイスの開発・製造・販売を行う。植物の環境応答を可視化し、作物栽培を支援するソリューションを提供し、持続可能な農業と環境保護に貢献する。

授与式では、坂井学長より蔭山健介教授へ称号記が贈呈されました。式には石井昭彦理事(研究・産学官連携担当)・副学長、松岡浩司オープンイノベーションセンタースタートアップ支援部門長も出席されました。



▲(左から)松岡部門長、坂井学長、蔭山教授、石井理事

〈企業ホームページ〉
<https://www.feelsensing.com/>



8 その他 国指定天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」特別見学会を開催

6月15日(日)、羽生市と本学の共催により、国指定天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」の特別見学会を開催しました。当日は天候にも恵まれ、地元の方をはじめ遠方からの参加者も含め77名が集まりました。冒頭では本学の金子康子名誉教授による解説が行われ、ムジナモの生態や保護の重要性について分かりやすく学ぶことができました。その後、参加者は長靴を履いて自生地内を見学、水路で生き生きと育つムジナモの姿をじっくりと観察し、地域の自然資源や環境保全への関心の高さがうかがえるイベントとなりました。



▲見学会の様子

世界のリーダーへと羽ばたいた本学卒業生 モンテネグロのスパイッチ首相と坂井学長が万博で会談 ― 学生にも激励のメッセージ

5月26日(月)、大阪万国博覧会において「モンテネグロ ナショナルデー」及び「午餐会」が開催され、万博に合わせて来日したモンテネグロのミロイコ・スパイッチ首相が出席されました。スパイッチ首相は本学経済学部の卒業生で、現在、国のリーダーとして国際社会で活躍されています。

当日は、モンテネグロ側からスパイッチ首相をはじめとする閣僚の方々、日本側からは政府関係者や大阪府・大阪市の幹部が出席し、国際的な対話と交流を深めました。本学からは坂井学長が出席し、スパイッチ首相と直接言葉を交わす貴重な機会となりました。

今回、本学にお招きすることは叶いませんでしたが、坂井学長がスパイッチ首相とお会いした際に本学の学生に向けたメッセージを書面でいただきました。「埼玉大学で得た経験と知識は、今の私を形作るうえで大きな力となり、挑戦を受け入れ、国際的な道を歩む勇気を与えました。思い切って羽ばたき、大胆に挑戦し、自らの志が望む場所へと進んでください」との温かいメッセージでした。

今後も本学は、スパイッチ首相との交流を契機として、モンテネグロとの良好な関係を築きながら、国際社会で活躍する人材の育成に努めてまいります。



▲スパイッチ首相と坂井学長

Pick up 研究者インタビュー

微小な“音”を捉え新たな可能性を切りひらく

理工学研究科 蔭山 健介 教授

人の耳には届かない微小な音を検出できれば、いろいろと役立つかもしれない——本学理工学研究科の蔭山健介教授は、そのような視点から、1Hz～300kHzという超広帯域の音響・超音波をリアルタイムで検出可能なエレクトロニクスセンサの開発や、それを活用した応用技術の研究に取り組んでいます。

たとえば植物は、根から吸い上げた水分を体内で運ぶ際に、微細な音を発しています。これを音響放射(アコースティック・エミッション)といいます。こうした音をセンサで捉えることで、作物の水分状態を把握できるようになり、最適な水やりのタイミングを見極める装置の開発につながることができるのです。さらにこの技術は、農業に限らず、インフラ構造物の損傷検知や医療モニタリングなど、音が鍵となる多様な領域への応用も見込まれます。

オンラインマガジン『Frontiers of SU Research』では、そんな研究について蔭山教授が語ったインタビュー記事を近日公開予定。ぜひご期待ください。



Frontiers of SU Research

<https://www.saitama-u.ac.jp/research/frontiers/>



埼玉大学基金より 学生団体等支援オンラインチャリティーイベントを開催します！

いつも埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。

このたび、学生がより充実した課外活動に取り組めるように、オンラインチャリティーイベント「Giving Campaign 2025」を開催することになりました。本イベントは、学生団体が自分たちの活動や挑戦を発信して、企業や個人から応援や寄附を募るオンラインイベントです。参加者は、学生団体の活動を紹介する特設サイトから応援したい学生団体に投票やメッセージを送り、また、任意で寄附を申し込むことができます。応援投票数に応じて、協賛企業からも寄附金が各学生団体へ分配されます。

「学生のチャレンジをみんなで応援する」、そんなあたたかい取り組みです。気になる団体を見つけたら、ぜひ応援してみてください！



埼玉大学
マスコット
キャラクター
メリンちゃん

学生のチャレンジを
みんなで応援！

開催期間 2025.10.10(金)9:00～10.19(日)21:00

参加方法

- 1 「Giving Campaign 2025」ホームページにアクセス
(アドレス <https://www.giving-campaign.jp/>)

Giving Campaign 2025



▲QRコード

- 2 参加する ▶ 応援する大学を選ぶ ▶  を選択

- 3 応援したい団体を1つ選択

- 4 応援に必要な情報を入力

詳細は上記イベントホームページをご確認ください【9月中旬公開予定】

【主催】埼玉大学
【運営】株式会社 Alumnote
【後援】文部科学省

※本イベントへのご支援は、埼玉大学基金の目的の一つである「埼玉みらい基金」への寄附となり、税制上の優遇措置を受けることができます。



詳しくはホームページをご覧ください

<https://www.saitama-u.ac.jp/funds/>

埼玉大学基金

検索

◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和7年 6月末の状況 **745,218,101 円**

うちリサイクル募金 きしゃぼん によるご寄附 **1,675,358 円**

お問い合わせ先 埼玉大学基金室（総務部広報渉外課内） ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

